

# 平成24年度落葉果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

平成24年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成25年2月4日(月)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

育調節剤11薬剤(54点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

この検討会には、試験場関係者42名、委託関係者23名ほか、計77名の参集を得て、除草剤1薬剤(2点)、生

育調節剤11薬剤(54点)について、試験成績の報告と検討が行われた。その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

## 平成24年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

### A. 除草剤

(注) アダージンは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ▷は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. SB-211 707アル ゲリサートリアロピルフィン 塩:20% カリフェントラタンジホス:2% [エ・ディー・エス・ハインツ 社]	ナシ	適用性 継続	柿木 大分 果樹宇佐 (2)	ねらい 一年生、多年生、スギナ/茎葉処理 対象 雑草 一年生(株) 全般 一年生広葉 全般 多年生(株) 全般 多年生広葉 全般 その他 スギナ 設計 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下)、春期および夏期 <水量> /10a 500ml <100L> 750ml <100L> 1000ml <100L> 対) ハダダ 雑草生育期(30cm以下) 500ml <100L>	・展着剤は不要。 ・樹に掛からない様に散布する。 ・処理後30日程度で調査を行う。 ・効果の発現を確認するため処理後5日程度で、さらに、抑草期間を確認するため60日後まで調査を行う。	実・継	実) [シ:一年生雑草、多年生広葉雑草] ・春~夏期、雑草生育期(草丈30cm以下) ・500~1000ml<100L>/10a ・茎葉処理 継) ・多年生(科雑草、スギナ)に対する効果の確認。

### B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ▷は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AF-1 くん蒸 1-メチルピコリン酸 :3.3% [ロム・アノ・ハスジヤハ ン]	キウイフルーツ(ハイワード)	適用性 継続	<愛媛 果樹研> 福岡<中間> (2)	ねらい 収穫後くん蒸処理 設計 密閉容器内くん蒸処理 <水量> /10a 収穫後2日以内 1000ppb(製品68mg/ml) 収穫後7日以内 1000ppb(製品68mg/ml)	・収穫用コジまたは出荷用箱に入れた果実をハット(容積3.5ml)に入れ、本剤238mgに100ml程度の水を加え有効成分の発生を促す。 ・直ちにハットを密閉し24時間密閉状態を保持する。 ・処理終了後に開封し、4~5℃にて保存する。 ・処理直後および処理30, 60, 90日後に果実硬度、軟化率等を測定する。 ・11月上旬、11月下旬の収穫果実を試験に用いる。	継	継) ・効果、葉害の確認
	キウイフルーツ(レインボウレッド)	適用性 新規	静岡 果樹研 <中間> (1)	ねらい 収穫後くん蒸処理 設計 密閉容器内くん蒸処理 <水量> /10a 収穫後2日以内(9月中旬収穫果実) 1000ppb(製品68mg/ml) 収穫後2日以内(10月中旬収穫果実) 1000ppb(製品68mg/ml)	・収穫用コジまたは出荷用箱に入れた果実をハット(容積3.5ml)に入れ、本剤238mgに100ml程度の水を加え有効成分の発生を促す。 ・直ちにハットを密閉し24時間密閉状態を保持する。 ・処理終了後に開封し、4~5℃にて保存する。 ・処理直後および処理30, 60, 90日後に果実硬度、軟化率等を測定する。 ・9月中旬、10月中旬に収穫した果実を試験に用いる。		

## B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 <試験中など (数)>	ねらい	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AF-1 くん蒸 つづき	バナナ (バナナ イッシュ、ラ ツナ)	適用性 新規	東京農大 神戸大学 フクシヤシム (自社) (3)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	1. ねらいで追熟したバナナ果実の日持ち性向上 2. 密閉容器内くん蒸処理 果実の着色度3~3.5 300ppb (製品142mg/ml) 果実の着色度3~3.5 1000ppb (製品456mg/ml)	・バナナ産熟熟バナナを1kg で所定の処理をして、着色 度3~3.5の果実を準備。 ・果実を処理用バナナパック (容積7ml)に入れ、1-3kgの 処理濃度1000および 300ppbで12~24時間くん 蒸処理をする。 ・施用後に処理区、無処理 区それぞれ房を20℃で保 存。 ・施用後、定期的に2週間 後まで果皮の着色度、シュ ド・ボトの発生度および 果実の硬度、糖度を調 査する。	継	継 ・効果、葉害の確認
2. AF-3 くん蒸 1-ナフトレン酢酸ナトリウ ム : 0.63% [ロム・アンド・ハース・シバ ン]	バナナ (バナナ イッシュ)	適用性 新規 (自社)	<フクシヤシム> (1)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	1. ねらいで追熟したバナナ果実の日持ち性向上 2. 密閉容器内くん蒸処理 果実の着色度3~3.5 303ppb (製品1錠で11ml) 果実の着色度3~3.5 1030ppb (製品1錠で3.4ml)	・バナナ産熟熟バナナを1kg で所定の処理をして、着色 度3~3.5の果実を準備。 ・果実を処理用の袋に入れ、 1-1kgを所定の濃度で 12~24時間くん蒸処理を する。 ・施用後に処理区、無処理 区それぞれ房を20℃で保 存。 ・施用後、定期的に2週間 後まで果皮の着色度、シュ ド・ボトの発生度および 果実の硬度、糖度を調 査する。	一	(試験中)
3. AKD-8152 水溶 1-ナフトレン酢酸ナトリウ ム : 4.4% [アグロ・カネショウ]	バナナ	作用性 新規	筑波大 (1)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	新梢伸長抑制 立木全面散布あるいは枝別散布 新梢発生時(1回) 1000倍 <十分量> 新梢発生時(2回) 2000倍 <十分量> 新梢発生時(2回) 1000倍 <十分量> 新梢発生時(2回) 2000倍 <十分量>	・翌年の花芽への影 響までの調査を行 う。 ・詳細な試験設計は 別途打合せ。	一	(作用性)
	バナナ	作用性 継続	青森りんご研 南 山形園試 (2)	ねらい (2) 設計 薬量 (水量) /10a	着果安定 立木全面散布あるいは枝別散布 落花直後 4000倍 <300~600L/10a> 落花5日後 4000倍 <300~600L/10a> 落花10日後 4000倍 <300~600L/10a>	・結実率の調査を行 う。 ・詳細な試験設計は 別途打合せ。	一	(作用性)
	バナナ	作用性 新規 (自社)	奈良 (1)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	摘花・摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 満開2~3日後 4000倍 <十分量> 満開5~7日後 6000倍 <十分量> 満開10日後 8000倍 <十分量> 参) 慣行摘蕾	・葉及び果実に対す る葉害の程度、およ び回復程度の調査を 行う。 ・果実品質に及ぼす 影響の確認をする。	一	(作用性)
4. NB-27 液 ピコチノール : 44.0% [日本曹達]	アブラムシ (ジャコウ スカット)	適用性 新規	山形園試 岡山 (2)	ねらい (2) 設計 薬量 (水量) /10a	副梢を含む新梢伸長抑制 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍 <150L>	・処理区が取れない 場合は満開10日処理 区を閉る。 ・短梢栽培で行う。 ・果実品質の確認を 行う。	継	継 ・効果、葉害の確認
	アブラムシ (ジャコウ スカット)	適用性 継続 (自社)	長野果試 長野果試 (1)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	副梢を含む新梢伸長抑制 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍	・処理区が取れない 場合は満開10日処理 区を閉る。 ・短梢栽培で行う。 ・果実品質の確認を 行う。	継	継 ・効果、葉害の確認
	アブラムシ (ジャコウ スカット)	適用性 継続	長野果試 岡山 佐賀 果樹試 (3)	ねらい (3) 設計 薬量 (水量) /10a	副梢を含む新梢伸長抑制 立ち木全面又は枝別散布 満開10日後 500倍 <150L> 満開20日後 500倍 <150L> 満開40日後 500倍 <150L>	・処理区が取れない 場合は満開10日処理 区を閉る。 ・短梢栽培で行う。 ・果実品質の確認を 行う。	実・継	[アブラムシ(ジャコウ)に選択的防止新 梢伸長抑制 ・満開15~20日後 ・500倍<150L/10a> ・立木全面散布 継 ・満開10日および40日後処理での 効果、葉害の確認
5. シナジド 液 シナジド 10% [高知県農業技術セン ター果樹試験場]	ブルーバ ナ	作用性 新規 (自主)	<高知果試> (1)	ねらい (1) 設計 薬量 (水量) /10a	休眠打破による発芽促進 樹全体に十分量を散布 休眠期(11月中旬散布) 10倍希釈液 休眠期(11月中旬散布) 20倍希釈液 休眠期(11月中旬散布) 30倍希釈液 休眠期(12月中旬散布) 20倍希釈液 無散布	・ギョウ等による根域 制限栽培、無加温裁 培(12月中旬被覆)	一	(作用性)

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容	
6. ジベレリン水溶液 ジベレリン:3.1% [協和発酵Nイ]	ブドウ (BK シードレス) 3倍体 品種	適用性 継続 (自社)	九州大学 (1)	着粒安定、果粒肥大促進 花房浸漬 満開3日後 100ppm <十分量> 果房浸漬 満開6日後 100ppm <十分量> 対) ジベレリン水溶液 花房浸漬→果房浸漬 満開時→満開3日後→満開10～15日後 25～50ppm→25～50ppm <十分量> 対) 無処理		継	継) ・効果、葉害の確認	
				山梨果試 島根 福岡 佐賀 果樹試 熊本 果樹研	ねらい 着果安定 設計 薬量 <水量> /10a 花そう散布→果実散布 満開期→満開20～30日後 100ppm→100ppm <十分量> 満開期→満開20～30日後 200ppm→200ppm <十分量> 果実散布 満開20～30日後→満開50～60日後 100ppm→100ppm <十分量> 満開20～30日後→満開50～60日後 200ppm→200ppm <十分量> 満開20～30日後 100ppm <十分量> 満開20～30日後 200ppm <十分量> 対) 人工授粉	・満開時処理は人工授粉 有無の区を設定する。他 の区については人工授粉 を実施(回数に慣行)。処 理は枝散布ではなく果実 単位での散布とし着果負 担を軽減する。 ・調査項目:予備摘果前 及び最終結実確認後の着 果率(着果数/処理花数)、 着色、果実重、果肉硬度、 果径、糖度、酸度、種子の 有無、花芽形成、新梢伸 長への影響、果面障害、 裂果の有無。 満開20～30日後に最終 着果量の2倍程度に予備 摘果する。 3,4区については2回目 処理前に摘果する。 満開50～60日に仕上げ 摘果(最終着果量の1.2 倍)を行う。	実	実) [実(貴属):着果安定] ・満開20～30日後 →満開50～60日後 ・100～200ppm ・果実散布 注) ・受粉後に散布する
7. ジベレリン塗布 ジベレリン:2.7% [協和発酵Nイ]	日本ナ (苗木)	適用性 継続	埼玉 園研 神奈川 長野 南信 岐阜 鳥取 園試 大分(自社)	ねらい 新梢伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 新梢部塗布 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×1回 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×3回 対) 無処理	・苗木への処理。新梢 長、副梢長を測定。 ・複数回処理の場合、 処理間隔は約2ヶ月 程度を目安。	実・継	実) [日本ナ(苗木): 新梢伸長促進] ・萌芽直前～新梢伸長期 ・100mg/新梢 3回 ・新梢部塗布 継) ・1回処理での効果、葉害の確認	
				群馬 神奈川 愛知 広島	ねらい 新梢伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 新梢部塗布 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×1回 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×2回 対) 無処理	・苗木への処理。新梢 長、副梢長を測定。 ・複数回処理の場合、 処理間隔は約2ヶ月 程度を目安。	継	継) ・効果、葉害の確認
				群馬 新現 (自社)	ねらい 新梢伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 新梢部塗布 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×1回 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×2回 対) 無処理	・苗木への処理。新梢 長、副梢長を測定。 ・複数回処理の場合、 処理間隔は約2ヶ月 程度を目安。	継	継) ・効果、葉害の確認
				宮城 群馬 神奈川 福岡	ねらい 新梢伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 新梢部塗布 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×1回 萌芽直前～新梢伸長期 100mg/新梢×2回 対) 無処理	・苗木への処理。新梢 長、副梢長を測定。 ・複数回処理の場合、 処理間隔は約2ヶ月 程度を目安。	継	継) ・効果、葉害の確認
8. ジベレリン/KT-30S 水溶液/液 ジベレリン:3.1% KT30S:0.1% [日本ジベレリン研究会 (協和発酵Nイ, 住友 化学, Meiji Seika77 等)]	ブドウ (巨峰) 巨峰系 4倍体	適用性 継続	石川 砂丘地 山梨果試 愛知	ねらい 無種子化、果房伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 花房浸漬→果房浸漬 満開20日前→満開10～14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> 満開14日前→満開10～14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> 対) 慣行	・調査項目:房長、軸長、 無核化率、着粒密度、着 粒数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色、ストロ ブリンは使用しない。 ・実際の満開前日数を 確認するため無処理区 での満開日を確認。 ・処理目安の判断材料 として処理時の展葉枚 数を記録する。 ・処理区・無処理区ぞ れぞれの摘粒時間を計 測。	継	継) ・効果、葉害の確認	
				山梨果試 岡山	ねらい 無種子化、果房伸長促進 設計 薬量 <水量> /10a 花房浸漬→果房浸漬 満開20日前→満開10～14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm <十分量> 満開14日前→満開10～14日後 GA25ppm+KT3ppm→GA25ppm	・調査項目:房長、軸長、 無核化率、着粒密度、着 粒数、房重、一粒重、糖 度、酸度、着色、ストロ ブリンは使用しない。 ・実際の満開前日数を 確認するため無処理区 での満開日を確認。 ・処理目安の判断材料 として処理時の展葉枚 数を記録する。 ・処理区・無処理区ぞ れぞれの摘粒時間を計 測。	継	継) ・効果、葉害の確認

## C.H23年度 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・催 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備 考	判定	判定内容	
1. AF-1 くん蒸 1-トリクロロアセトン; 3.3%  [ロム・アンド・ハスジヤバ ン]	キウイフル ワ(さぬ きゴルド)	適用性 新規	香川 府中  (1)	ねらい	収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上	・収穫用コフチまたは 出荷用箱に入れた 果実をバレット(容 積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、本 剤238mgに100mL程 度の水を加え有効 成分の発生を促す。 ・直ちにバレットを 密閉し24時間密閉 状態を保持する。 処理終了後に開封 し、4~5℃にて保存 する。 ・処理直後、60、90、 120日後に、無処理区 との差がみられる まで果実硬度、軟化 率等を測定する。	-	H24年度分参照
				設計 薬量 <水量> /10a	密閉容器内くん蒸処理 収穫後2日以内 1000ppb(製品68mg/m <sup>3</sup> )			
	キウイフル ワ(ハイワ ド)	適用性 新規	愛媛 果樹研 福岡  (2)	ねらい	収穫後くん蒸処理/貯蔵性向上	・収穫用コフチまたは 出荷用箱に入れた 果実をバレット(容 積3.5m <sup>3</sup> )に入れ、本 剤238mgに100mL程 度の水を加え有効 成分の発生を促す。 ・直ちにバレットを 密閉し24時間密閉 状態を保持する。 処理終了後に開封 し、4~5℃にて保存 する。 ・処理直後、60、90、 120日後に果実硬度、 軟化率等を測定す る。 ・収穫後7日以内の果 実を試験に用いる。		
2. CX-10 液 シアンid:10%  [日本カーバイド工業]	カ	適用性 新規 (自社)	福井 静岡 鹿児島  (3)	ねらい	休眠打破による発芽促進	・処理時期は11月を 目安とし時期を2区 設定する。 ・散布時期、濃度によ る効果の差、発芽時 期・展葉時期・発芽 数(発芽率)・最大発 芽率までの到達期 間、着果開始期、結 果開始時期・着果 率・収穫時期の調査 を行う。 ・枝単位の処理可。液 が滴り落ちる程度 十分散布する。(実 際の散布液量を記 録する)	継	継) ・効果、被害の確認
3. ジベレリン 水溶 ジベレリン:3.1%  [協和発酵バイオ]	カ	適用性 新規 (自社)	群馬  (1)	ねらい	開花遅延	調査項目: ・霜害対策として被害率、結実率、収量 ・開花期の拡大として結果率、果実品質 ・開花期の同調として花粉稔性、健全花率 ・無処理と比較した開花遅延日数。	継	継) ・効果、被害の確認